

学校図書館支援センター通信 158号

令和3年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

市川市立下貝塚中学校 3年生 国語科「SDGs 進め方を工夫して話し合おう」

下貝塚中学校の第3学年で行われた国語科の実践をご紹介します。

今回の単元「SDGs 進め方を工夫して話し合おう」の指導事項は、「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること（思考力、判断力、表現力）」、「情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと（知識及び技能）」です。授業者の清水幸子先生は、様々な情報源から情報を収集し、収集した情報をもとに自分の意見を発言し、話し合いを進めることができるように、図書資料やインターネットを活用しました。今回の学習では、生徒たちが自ら必要な情報を探せるように、学校司書の牛尾直枝さんと連携を図りながら、進めていきました。

生徒たち一人一人が学校図書館の書架から図書資料を選ぶことができるように、書架見出しの工夫を行いました。また、関連する書名やインターネットのサイトの紹介などを記載したパスファインダーも作成しました。パスファインダーとは、どの資料で調べたらよいか分かる手引きのことです。このような効果的な手立てのもと、生徒全員が必要な図書資料を探し、収集した情報を情報カードや付箋に書き留めることができていました。

今回は、はじめにインターネットを使ってSDGsについての予備調査を行いました。そして、調べたい内容について図書資料を使って調べ、次時にインターネットに戻り図書資料では調べられなかった内容について調べるという流れで授業を行いました。授業の中で、学校司書の牛尾さんから「インターネットと図書資料のキャッチボールが大切」という話がありました。インターネットは、新しい情報を得ることができる良さがありますが、誰でも書き込みができるので信頼性に欠けるという面があります。それに対して、図書資料は、情報が古くなってしまいうという欠点はあるものの、長い時間をかけて複数の人達が関わり確認をしながら作られているので信頼性が高いです。これからは、それぞれのよさを活用して、確認しながら調べていくことが大切になっていきます。

「問題になっていること」「世界や日本の状況」「対応策や取組」について情報を集め、情報をもとに、一人一人が「私たちにできること」について考え、話し合いを通してさらに考えを深める学習となりました。

生徒たちが主体的に情報収集できるための工夫（学校図書館内のコーナー展示、書架見出しの工夫）

生徒たちが自ら図書資料を探ることができるようにするために、書架見出しの横に関係するSDGsの目標が掲示されていました。また、関連する図書は、表紙を見せるように置かれていました。



廊下掲示の工夫

昨年度の3年生の学習と一緒に掲示しており、生徒たちは見通しを持って学習に臨んでいました。



豊富な資料

新聞や雑誌からも情報を集めていました。



図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

大洲中学校図書委員会では、毎年全校生徒と教職員におすすめの本の紹介を書いています。そしてそれらを紙に貼り、一冊の巨大な本の形にまとめ、「巨大本」として図書館前の廊下に展示しています。

このことに加え、生徒に対して読書についての簡単なアンケートも行い、図書館運営に役立っています。巨大本の製作期間中は、普段図書館であまり見かけない生徒が本を選びに来てくれたり、また展示してからも「この本ありますか。」と聞きに来てくれる生徒がいたり、効果は絶大です。

コロナ禍で図書館内での会話が憚られる今だからこそ、これからはこういった展示の企画に力を入れていきたいと思います。

【市川市立大洲中学校 学校司書 荒井 一樹】



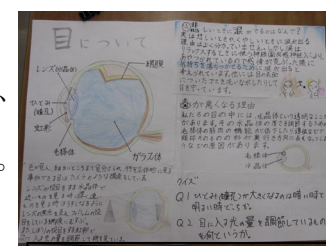
4年目教諭対象 授業力アップ研修会（中学校） 高谷中学校 理科「生物の体のつくりとはたらき」公開授業について



4年目教員を対象とした授業力アップ研修会では、学校図書館を活用した授業の参観を行っています。今回は、中学校の先生方に授業を公開していただいた、高谷中学校 教諭 厚美 加那子先生の授業をご紹介します。

本時では、2年生の理科「ヒトのからだのつくりとはたらき～目のつくりとはたらき～」の学習でした。単元の1～2時間目に、各器官についての疑問や知りたいことを調べ、まとめる時間を設定しました。調べた内容は、授業の中で発表していきます。今回は、目のしくみについて調べたグループが授業のはじめに発表をしました。発表の最後に、クイズが出題され、生徒たちは、そのクイズに答えるために、図書資料を使って調べていきます。途中、盲点体験を取り入れ、実際に体験させる場面もありました。図書資料から情報を収集する際、同じ班の人たちと話し合いをしながら進め、理解を深めていました。授業の終末に、大型提示装置に映し出しながら、調べたことを発表しました。

「図書資料を使って調べると頭に入ってくるなあ」とつぶやいた生徒がいたそうです。図書資料を通して、生徒たちが主体的に学ぶことができていました。

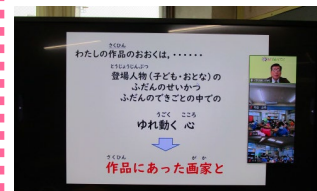


生徒たち発表で使った文書

富貴島小学校 オンライン作家講演会



10月22日（金）富貴島小学校にて、オンラインを活用した作家講演会が行われました。今回は、「おこだてませんように」などの作品で有名な児童文学作家くすのきしげのりさんのご講演でした。低・中・高学年に分かれて講演会が行われ、発達段階に合わせたお話や読み聞かせをしていただきました。子供たちからは「すごく楽しかった。」「本の秘密を教えてくださいました。」「紹介された本を読みたい。借りたい。」という声があり、次の読書活動の意欲につながりました。



今回の作家講演会を迎えるにあたり、くすのきしげのりさんの作品をネットワーク便で集め、全校の児童が読める環境を整えました。また、学校司書による読み聞かせや昼の放送を活用し委員会の児童が全校へ読み聞かせを行いました。このような取組と作家講演会を組み合わせることで、読書活動への効果が高まりました。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高11-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

